

2020 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会の概要

1. 実施概要

- (1) 日 時 2019 年 10 月 30 日(水) 16:30~17:30
- (2) 場 所 株式会社日立物流 本社 2F 大会議室 (東京都中央区京橋二丁目 9 番 2 号)
- (3) 出席者 <当社>
代表執行役社長 中谷 康夫、代表執行役副社長 神宮司 孝
執行役専務 佐藤 清輝、執行役専務 林 伸和、執行役常務 藤谷 寛幹
<報道関係者・機関投資家・アナリスト他> 68 名
- (4) 内 容 ① 決算概要説明、補足資料説明
② 質疑応答

2. 主な質疑応答(要旨)

Q1. 協創新規や環境変化など、通期計画に対しての進捗を教えてください。

A1. 協創新規は計画通りに進捗すると思います。生産性向上は、昨年度の上期でコンサル費用の支払いを終えており、今年度の上期に効果が大きくなっていますが、自主的に細かな改善ができていることにより計画以上に進捗すると思います。一方で、事業環境は厳しさを増しており、バンテックは下期も厳しい見通しなので生産性の改善でカバーしていきます。また、米中貿易摩擦の影響でフォワーディング物量が減少しており、下期の苦戦も計画に織り込んでいます。

Q2. SG ホールディングス(以下、SGH)との協創効果は当初の目標値を達成したと思いますが、次のステージにはいつ進むのでしょうか。

A2. 次のステージに進むにあたっては将来の方向性をお互いに一致できるかを協議する必要があると思っています。将来の投資を一緒にできるかの検討を進め、その延長線上で両社のあり方についても決めることになります。

Q3. SGH と次のステージに進むにあたって将来の方向性の一致が重要とのことですが、それに向けたハードルは何ですか。

A3. 方向性の一致もありますが、現時点の成果の中で当初の目標を達成できなかった点として、海外での協業効果を創出できなかったことが挙げられます。この点については別の手段でアプローチしていかないと次には繋がらないと思っています。

Q4. SGH との海外での協業について、当初想定していた成果はあったのでしょうか。

A4. 国内では加速度的に協業効果が積み上がっており、営業情報・ファシリティの共有や信頼関係もできています。海外ではベトナムやタイでの協業効果創出を考えていましたが想定した規模には至りませんでした。現状のまま海外での協業効果を伸ばすというよりは、どういったパートナーとどういった地域で伸ばしていくかの認識を共有し、SGH と一緒に投資することに合理性があるエリアは一緒に投資していければと思います。両社で課題の共有はできており、議論している部分です。

Q5. 具体的には海外でどういった積み上げができていないのでしょうか。

また、拠点シェアリングによる協業も進められていますが、進捗はいかがでしょうか。

A5. 国内では、決算説明資料にて紹介した化粧品顧客向け DC の案件で SGH が拠点運営を行っており、初めのケースになります。また、現在は 10 拠点程で拠点のシェアリングが進んでいます。海外では中途半端な投資をしても刈り取ることができないと思っています。また、日系顧客の開拓にも限界があるので、大きな仕掛けが必要ではないかと考えており、その相応しい相手は外にいます。協業を加速する為には何が必要か、足りないピースは何かを議論しています。

Q6. バンテック業績はいつ頃に反転をする見込みでしょうか。

A6. 4Q まで現状が続くと見込んでいます。但し、そうなったとしても現時点ではそれ以外の取り組みでカバーできると思います。バンテックの人財をオーガニック国内にシフトするなどして、繁閑調整がうまくできるようになっています。他にもバンテックの輸送力をオーガニックにも活用しています。また、デジタルを含めた仕組みづくりを行っており、今後はグループ内へ展開し、外販にも取り組んでいきます。

Q7. 日立オートモティブシステムズとHondaグループの自動車部品メーカーの統合について報道がありましたが、御社にとってプラスに影響するのでしょうか。

A7. ビジネスチャンスであると思います。パレネットは日立オートモティブシステムズから譲り受けており、関係を深めています。既存の物流事業者との関係はあると思いますが、当社ビジネスに生かしていきたいです。

Q8. EC プラットフォームセンターの新規ビジネスは、いつ頃にどの程度収益に貢献するのでしょうか。

A8. EC プラットフォームセンターは9月 23 日から稼働しておりますが、お客様の取り扱い量も増えており、来年の4月から収益化する見込みです。現在は2千坪程度ですが、軌道に乗ってくれば、さらに他の大型センターの稼働を進め、1万坪程にしていきたいです。

Q9. IFRS 第 16 号「リース」の適用影響で、当期利益への影響が最終的にニュートラルになるのはいつ頃でしょうか。

A9. 現時点での試算では8年位掛かる予定です。リースの買い取りやお客様に賃借して頂くなど変化も表れてきており、今後変動する可能性はありますし、当社の投資の仕方が変わってくることもあると思います。

3. 会場風景



以 上